

# アユの恐怖の 病気「冷水病」

# 「善玉菌」で抑制に成功

宮崎大学の前田昌誉名誉教授はアユの恐怖の病気と呼ばれる「冷水病」発症を、抗生物質などの薬品を使わずに善玉菌（シユウドモナス菌）で抑制する手法を開発、このほど発表した。

アユ養殖業者の協力を得て、今年この善玉菌を添加した餌を養殖アユに与えたところ、一尾も冷水病にかからなかったことが確認された。これにより「無薬養殖」による健全アユ養殖が大きく前進する期待が広がり、民間企業と連携して年内にも生菌入りの餌の大量生産・販売も計画されている。

アユの冷水病は細菌性で伝染性が強く、平成の初めごろから天然、養殖アユでみられるようになって

## 「発生ゼロ」 実用化試験

### 前田・宮崎大名誉教授が新手法

その病気の発生、進入についてははっきりしていないが、病気がかかること死亡したり糜爛（びらん）や潰瘍が発生、毎年、大きな被害となっている。近年のアユ生産の減少も、この病気が原因の一つといわれる。このため、養殖業者の間では冷水病は「恐怖の病気」と呼ばれている。

冷水病への対応方法としては「抗生物質が投与されているが効果が低く、ワクチンはまだ実用化されていない。また、治療期間中（3～4週間）は健全なアユは出荷・販売ができないため、収益が打撃となっている」（前田名誉教授）。

今回採用した善玉菌は水中や土中などに広く分布するシユウドモナス菌のMS-1株という新種。冷水病菌の発生・増殖を抑制する働きがあるため、今後、抗生物質などの薬品を使わない「無薬養殖」の期待が大きくなった。耐病性のあるアユの放流も可能となり、資源量の回復が期待できる」としている。

宮崎市内の大手養殖業者「あゆの是則」は民間企業と連携して善玉菌を混ぜた餌の販売も計画されている。

前田名誉教授は6年前に、善玉菌を混ぜた餌を宮崎大学ベンチャー企業として、バイオプロジェクト（株）（宮崎市、前田昌調代表取締役）を設立し、薬剤を使わない農業や水産養殖、畜産を推進している。これまでに例年4、5月に冷水病で大きな被害が出ていたオコントロールで健康なアユが、これが止まったという。また「あゆの是則」養殖場などの生産に役立つ方法を実用化している。

# 水産経済新聞

6月1日 金曜日  
Friday  
2012年(平成24年)  
発行所  
水産経済新聞社  
東京都港区六本木6丁目8番19号  
電話 03-3404-6531(代) 106-0032  
FAX 03-3404-0863  
振替口座番号 00160-6-92557